

# 国語科 学びづくり案

福山市立霞小学校

- 1 日時 2025 年（令和 7 年）10 月 31 日（金）
- 2 学年 第 5 学年 1 組（22 名）
- 3 単元名 物語の全体像を想像し、考えたことを伝え合おう 「たずねびと」 光村図書
- 4 単元について

## （1）教材観

本単元は、小学校学習指導要領(平成 29 年告示)国語 第 5 学年及び 6 学年〔思考力・判断力・表現力等〕C 読むこと（1）の指導事項「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」を重点に指導していく。本教材は、登場人物の心情の変化を文章中の言葉や情景描写をもとに解釈することで、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることのできる教材である。自分たちと同じ年齢の綾に自分を重ねて読むことにより、戦争や平和について様々なことを知り、気付き、自らの考えを深めていくことができる。

## （2）児童観

本学級の児童はこれまで、登場人物の会話や行動に着目し、人物同士の関わりを読み取る学習をしてきた。第 4 学年では、「一つの花」で、繰り返し出てくるものや言葉について考え、「ごんぎつね」で、人物の気持ちの変化を考えて感想をもつ学習を行い、第 5 学年「銀色の裏地」では、表現に着目して人物の心情や関わりを捉える学習を行ってきた。前単元「銀色の裏地」では、登場人物の心情を想像することで登場人物同士の関わりを読み取ることができた児童は約 9 割だった。しかし、登場人物の心情が暗示的に表現されている場合や根拠となる叙述を関連付けて登場人物の心情を考えることに苦手意識をもっている児童は 4 割程度いる。登場人物の思いを読み取るために必要な語句を見つける力にも個人差があると思われる。

## （3）指導観

指導にあたっては、物語の全体像を具体的に想像させるために、主人公「綾」が戦争で亡くなった同姓同名の「アヤ」をたずねていく中で様々な「人・もの・こと」との出会いを通して変化していく綾の心情が表れた叙述に着目しながら読ませたい。第一次では、物語を通読し自分の心に残った箇所等を交流することによって学習課題を設定していく。第二次では、「綾」が「アヤ」や広島での出会いを通して戦争や平和に対する思いを変化させていく様子を読み取り、物語の全体像を捉えることができるようにする。児童は一人読みの際に、大事だと思う箇所にサイドラインを引いている。読み取りの際には、それらの箇所を手掛かりに根拠として考えた叙述に立ち返りながら学習を進めていくことに留意する。第三次では、「たずねびと」を読んで変化した各自の考えを交流することで、戦争や平和に対する自分の考えを広げることができるようにする。考えをまとめることが難しい児童には、心に残ったことや場面とその理由を確認させることで、自分の気持ちや考えがどう変わったのかを結び付けられるようにする。また、単元を通して戦争や平和がテーマの文学作品について並行読書をしていく。単元末には、物語全体でどのようなことが描かれていたか、どのような点に着目して物語の

全体像を想像したかという観点から紹介し合う活動を行う。並行読書をしてきた図書と本教材とのつながりを交流し、総合的な学習の時間で取り組んでいる平和学習とも関連させながら平和への学びを深めていきたい。戦争を知らない綾が色々な出会いで戦争や平和について自分の考えや思いをもったように、児童らにも並行読書や新聞記事、戦争体験者の方からの聞き取りなどを通して、自分事として平和について考えさせていきたい。

学校図書館の活用については、総合的な学習の時間の関連と併せて、本校の学校図書館だけでなく、福山市立の各図書館等とも連携を取りながら児童ができるだけ多くの図書と接することができるようにしていきたい。

## 5 本単元の目標と評価規準

### (1) 本単元の目標

- 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。【知識及び技能】(1) ク
- 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】C (1) エ
- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

### (2) 評価規準

( ) 内は鷹取中学校区育成する力(資質・能力)

知識・技能 (知識・技能)	思考・判断・表現 (課題発見・解決力)	主体的に学びに取り組む態度 (主体性)
① 比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。	① 「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像している。	① 粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。

## 6 単元計画(全9時間)

次	時	学習活動案	学校図書館活用のポイント	評価規準
一	1	○題名等からどのような物語かを想像する。 ○全文を通読して初発の感想をもつ。	・戦争や平和がテーマの文学作品（朽木さんの作品を含む）を紹介し、教室に置いておく。	
二	2	○初発の感想を交流し、学習課題を設定する。	・教室に置いてある以外の関連図書も、教室において、児童が読めるようにする。	○比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。(発言・ノート)【知①】 ○人物像や物語などの全体像を具体的に想像している。(発言・ノート)【思①】
	3	○1～4場面を読み、「綾からアヤへの関心の高まり」という視点から、綾の心情の変化を読み取る。 ○並行読書している物語についても、登場人物の心情の変化について個人で整理する。		
	4	○5～6場面における出会いが綾に与えた影響について考える。		
	5	○7場面における出会いが綾に与えた影響について考える。 ○並行読書している物語についても、登場人物の心情の変化について個人で整理する。		
	6	○最後の場面を読みながら、綾の心情の変化について話し合う。		
三	7	○「たずねびと」を読んで変化した自分の気持ちや考えを書く。 ○グループで考えを交流する。 ○並行読書している物語を読み、変化した自分の考えを整理する。		○粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習課題に沿って、考えたことを伝え合おうとしている。(発言・ノート)【主①】
	8 (本時 8/9)	○並行読書してきた本を読んで考えたことを紹介し合う。	・交流を通し、様々な物語を読むことのよさに触れるようにする。	
	9	○単元全体を振り返る。		

## 7 本時の目標

- ・物語の全体像を具体的に想像し、考えたことを伝え合うことができる。

## 8 本時の展開（本時 8 / 9）

展開	◎学習活動 ・予想される児童の反応	○指導上の留意事項	◆評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	◎「たずねびと」の学習を振り返る。 ○「たずねびと」はどんなお話でしたか。 ・綾が色々な人との出会いで平和について考えるようになった。 ○「たずねびと」と合わせて自分でどんな本を読んできましたか。 <div>             ◎読んだ本の紹介と自分の考えの交流をしよう。           </div>	○前時までのノートや教室掲示等を参考に学習を振り返る。 ○本単元の目標である、物語の全体像を想像し、考えを伝える活動であることを押さえる。また、「たずねびと」とのつながりを合わせて紹介することで、前時までの学習とつながることも併せて押さえる。	
展開 (35分)	◎自分が並行読書してきた本の紹介をする。 ○同じ本を読んだグループで考えを交流しましょう。 (1) 千年もみじ (2) かげふみ (3) 光のうつつえ ◎各グループで話し合ったことを交流する。 ○それぞれのグループの発表を聞いて、思ったことはありますか。 ・どの本も悲しい事がそれぞれあったけれども、それを乗り越えていこうとする強さを感じた。 ・自分たちが知らない時代や場所の話だったけれど、自分も何かしようという気持ちになった。 ・「たずねびと」などの戦争に関する本を読んでいると、1学期に枝廣さんから聞いた戦争体験のことを思い出す。(福山空襲の実体験)	○同じ本を読んだ者同士でグループとなり、感想を交流させる。 ○それぞれの本を提示しながら発表させる。 ○「たずねびと」とつながることも合わせて発表させる。	◆粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、考えたことを伝え合おうとしている。 (発言・ノート) ※ここでは指導に生かす評価に留める。 <div> <u>学校図書館利用のポイント</u>            交流を通し、様々な物語を読むことのよさに触れられるようにする。         </div>
終末 (5分)	◎本時のまとめをする。 <div>             (例) 登場人物の心情の変化に気を付けて読むと物語の全体像が想像できる。           </div> ◎ふり返りをする。	○自分たちの学びを広げるにはどうしたらよいか考えさせる。	<div> <u>学校図書館利用のポイント</u>            自分たちの学びを広げるため、学校図書館への掲示等を考える。         </div>

学びをつなぐふり返り

9 板書計画

光のうつしえ	かげふみ	千年もみじ	④読んだ本の紹介と自分の考えの交流をしよう。	たずねびと  朽木 祥
それぞれのグループによる読んだ本ごとについての発表内容。 「たずねびと」とのつながりも書く。				